

6 つくばね学で新しい自分をつくろう

高校生ならば これくらいは知ってほしい進路の常識！

高校の進路指導室には、年間300を超える大学や短大や専門学校の入試担当、そして企業の採用担当の方々が来られ、入試要項や求人票には書かれていない話を伺うことができます。

それらの話から「高校生なら、これだけは知ってほしい進路の常識」をまとめてみました。就職でも進学でも試験は競争です。競争は「できる」「できない」ではなく「どれだけ早く準備するか」で決まります。この4月、自分でできることから始めましょう。



①新しい習慣を身につける

就職用適性検査を作る会社の人に言われたことがあります。「企業の採用で見られるのは、良い習慣がある人かどうかです。」その話を聞いていて、授業で思い当たることがあります。列の後ろの人にプリントを集めてもらうことがよくありますが、紙の方向を揃えて、トントンと揃えて「はい」と言って渡してくれる人がいます。その人は無意識なのでしょうが、こちらはとても気持ち良く感じます。それが習慣なのです。小さなことでも良いと思います。何か新しい習慣を始めてみましょう。

②社会人から見て気持ちが良い服装・頭髪にする

ある美容専門学校の先生が言いました。「うちでは学生が学校で派手な服装や頭髪をするのを禁止しています。美容師はお客様をきれいにするのが仕事であって、仕事では自分が目立ってはいけないからです。ですから、学校の規則を守ってくれそうにない生徒さんは御遠慮願っています。」学校や企業は、高校生では想像できない基準で受験生を見ることがあります。県内のある看護系の学校の先生は「受験の時に、新しい靴を履いてきた人はチェックします。」と言われました。私は理由がわかりませんでした。皆さんはわかりますか？

受験の世界の有名な格言に「面接は受験生を落とすためにある」というのがあります。

③ていねいな話し方と立ち振る舞いを追求する

ていねいに話す習慣のない人は、何十回も練習しないと、面接の時に必ず不自然な話し方になります。受験の場では緊張するので、悪い癖を直そうとすると余計不自然になります。歩き方もそうですね。普段スカートが短い人は、長い人と歩き方が違うのと同じです。

④遅刻・欠席・早退をしないのが普通だと考える

皆勤に勝るものはありませんが、社会常識（先生に聞いてみよう）の範囲内ならマイナスにはなりません。ただし欠席がラインを越えると、門前払いの学校や企業があります。これも美容系の専門学校で、成績も性格も良いのに推薦入試で落ちた生徒がいました。理由を聞いてみると「3年生での欠席日数が7日を越えると推薦入試は自動的に不合格になります。お客様相手の職業ですから休まれたら困ります。」と言われました。

入試要項にはっきり書いてある学校もあつたり、私たちの経験でわかる学校もありますが、普通はわかりません。もちろん、骨折して入院など納得のできる理由があれば問題ありませんが、風邪や体調不良などでは理由と認められないケースが普通です。

⑤掃除をする

ある大学の教授とお会いした時に「とにかく掃除をする人間が欲しい。」と言われました。学校の掃除には成績はつきませんよね、でも、なぜ掃除をするのでしょうか？ さあ、よく考えてみましょう。その答えから、どんな人が求められるのか想像できますね。

⑥成績を上げる

評定平均は大切です。出願条件や合否は当然ですが、奨学金や特待生などがここ2～3年で増えています。評定平均の少しの違いで、金銭面でも、入学金や授業料など数十万～百万円安くなる学校が増えています。3年になって、就職やAO入試、指定校推薦など、早い出願ならば4月～7月までの成績、一般の推薦入試なら9月までの成績が3年生の1年分の成績となります。つまり、努力すれば、短い期間でも1～2年の時より大きな効果があるということです。

⑦志望理由がはっきりと言える

ある福祉系の学校の先生から聞きました。「うちは比較的入りやすい学校だと思いますが、最近、志望理由さえ言えない受験生が受けに来るようになりました。それは、さすがに不合格にしています。」進学でも就職でも、志望理由が明確な言葉で言えることは最低条件です。

⑧正しい漢字と段落のある文章が書ける

ある企業の話ですが、就職試験の作文で、ひらがなが多すぎて不合格になった人がいました。それは極端な例ですが、進学でも就職でも日本で一番多い問題形式は作文（小論文）です。ところが、段落をつけないで文章をだらだら書いたり話したりする人がいます。段落がないのは内容を考えていないと見なされ、間違いなく0点です。

⑨進学希望者はオープンキャンパスに積極的に参加する

必ず2校以上行って比べてください。2校以上で比べることが大切です。実際に見学しないと、他人に聞いた話や自分のイメージと感情だけで決めてしまいます。あるビジネス系の専門学校の入試広報の担当の方の話では「私たちは、オープンキャンパスに来ないで受験しに来た受験生を警戒します。学校見学もしないで入学し、イメージが違ったと言って退学する割合が高いからです。」途中で退学すれば本人も不幸ですが、学校側も授業料などの収入が減るので経営上不利になるという理由があるのです。

⑩SHRの連絡・教室の掲示・進路指導室の掲示をよく見る&聞く

人の話を静かに聞く、プリントを黙って読む習慣がない人は、情報化社会で生きていけません。本校にも数百以上の学校や企業から、たくさんのパンフやポスターが来ます。知らない間に掲示され、知らない間に期限が過ぎていたということもあります。情報収集に敏感になって、自分の第一志望の学校や企業の大切な情報・案内を逃さないように注意しましょう。

⑪確かな情報を得られる場所に行く

進路学習室の掲示板には、専門学校などが開く高校生3年生向けの公務員や就職などの各種講座のポスターを掲示しています。例えば、ある企業では試験に「クレペリン検査」をします。その企業はクレペリンのミスパターン化して「このパターンの方は、入社して事故を起こす割合が高いので採用しない。」という基準で選考していました。そのような情報を知っているのと知らないのとでは大違いです。図書館にも足を運びましょう。



先輩の話から何を読み取りますか？



【専門学校：A先輩の作文】

私が合格に向けて努力したことは、たくさんオープンキャンパスに参加したことです。行きたいと思った学校には積極的に参加して、学校のことをよく知ることが大事だと思います。その学校に行きたいと決まれば、専門学校だったら何回もオープンキャンパスをしているので、たくさん行っておくべきです。私は4月から10月の間に、9回参加していました。たくさん行くことで、学校のことを詳しく知ることができるし、専門学校の先生と仲良くなり、楽しく会話することができるようになります。入試当日には、その仲良くなった先生がいて、「がんばってね」と言われて、本当に合格したいという気持ちになり、がんばることができました。

その他に努力したことは、面接練習です。入試の内容が面接だったので、受け答えの内容を考えました。特に、志願理由を考えるのが大変でした。自分で内容を考えてけれど、やはり無駄なことも書いているので、先生に見てもらい直してもらって納得のいく志願理由を完成させました。入試が近づくにつれ、先生との面接練習をはじめました。初めてしたときは、家で話す内容を完璧に覚えたと思っていただけで、いざ先生の前で言うとなると頭が真っ白になりました。だから、何回も先生と面接練習をしておく、入試のときも少しでもリラックスしてできると思います。

入試当日は、とても緊張しましたが、進路ノートを見て覚えなおして面接に挑みました。面接するときの雰囲気もよく、集団面接でしたが、自分の言いたいことを伝えることができました。



【就職：B先輩の作文】

私が合格に向けてがんばってきたことは面接です。私は人見知りをするので、人と関わるのが苦手でした。ですから、就職試験の中でも面接が特に不安でした。

最初の面接指導では、自分の思うように話すことができず、とても苦労しました。面接で話す言葉を考えるのも大変でした。正しい敬語を話さなければいけないので、先生や親に聞きながら文章を考えていました。自分の納得のいく文章ができて、先生の納得のいく文章でなかったりしたので、何回も文章を考え直したりしました。文章を考えても、その文章を覚えなければなりません。暗記をするのも苦手なのでとても苦労しました。先生との面接練習では、緊張して何も言えず沈黙ばかりのときもありました。しかし、そこから先生がアドバイスをくれたり、友人が相談にのってくれたりしました。そして、練習を重ねていくうちに、自分の伝えたいことがだんだんと言えるようになりました。その度に、とても嬉しい気持ちになっていました。自分ができない時に助けてくれた先生や親や友人に感謝してもし足りないくらいです。就職試験の本番では、全然想像していなかった質問も聞かれましたが、何とか答えることができました。努力をすれば結果が必ず付いてくるを改めて知ることができました。

これから先、また努力をしなければいけないときが必ず来ると思います。これからも努力を怠らず、どのようなことでも一生懸命頑張っていきたいと思っています。



